



西合志第一小学校 学校だより 第17号 令和7年11月17日

くすのき



約25年前、田中先生って「宇宙人ばい」と、当時担任していた子どもが描いてくれた似顔絵です。



かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに

文責 校長 田中 知博

これが「のため」に楽しむ!第一小の子どもたちです! ～西中校区小中一貫教育実践発表会(R7.11.13)～

11/13(木)に西中校区小中一貫教育実践発表会を行いました。第一小から2年生・3年生・6年生が学校を代表して授業公開をしたところ、合志市内の小中学校の教員や地域の方など100人近い参観者が来校されました。

大勢に囲まれ、普段は「ものおじ」しない子どもたちもさすがに緊張はしたようでしたが、いざ授業が始まってしまえばいつも通り、いや「いつも以上」に張り切って頑張っていました。

参観者からは、第一小の子どもたちについて「みんな素直で素敵」「落ち着いている」「話の聞き方がすばらしい」「みんな助け合っていた」などなど、総じて「第一小すごい!」との声をたくさんいただきました。子どもたちのがんばりのおかげで職員も校長も鼻高々でした^^

「だいいち だいすき♡」



【西中校区の主な共通実践↓】

- 学習規律の徹底
- 支持的風土の醸成
 - ・授業開始前黙想 ・あいさつ
 - ・返事 ・先語後礼 ・くつ並べ

第一小が熊日新聞(10/31)で紹介されました!◆

演劇楽しんで 感性育んで

西合志第一小 劇団公演 児童も参加

合志市の西合志第一小で21日、劇団銅鑼(東京都)の公演を鑑賞する会があり、全校児童100人が役者の演技や舞台上の演出を楽しんだ。

子どもの豊かな感性を育む文化庁の事業の一環で、文化芸術団体が、応募した全国の小中学校を巡回する。銅鑼は本年度、熊本県内の5校で公演する。

劇団は「真っ赤なお鼻」の放課後を上演。進路に悩む高

校2年の主人公が、病院で患者を笑顔にするクラウン(道化師)の活動に出会い、もがきながらも夢を見つける物語。難病やヤングケアラーなどの社会課題を取り入れたストーリーで、子どもたちは1時間45分の演目をじっくりと鑑賞していた。

4～6年生の10人も、赤鼻を付けて登場。決まったセリフはなく、それぞれが自由にクラウンになりきった。ステージに上

がった8年の野田彩芽さんは「笑顔でいることを意識した。悲しい場面でもお客さんが楽し

めるように演出がされていてすごいなと思った」と話した。(志賀菜里耶)



劇団銅鑼の公演で舞台上上がった児童たち=21日、合志市